

一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)

中等部ミツバチプロジェクト

● 中等部 教諭

なかむらまさゆき
中村宜之

「甘あい!」「さっぱりしておいしい」「香りが強いね」「きれいだ!」毎年9月に実施している蜂蜜搾り。中等部のピロティは蜂蜜搾りを体験する生徒たちとティスティングする生徒たちで賑わう。初めて見る蜜巣や遠心分離器から流れ出る蜂蜜の輝きに驚く表情もまた輝く。

中等部にセイヨウミツバチを迎えて4年目。SDGsを意識した取り組みを行う中等部で、いのちの循環や持続可能な一例を生徒たちと共につくりたい。そんな思いでスタートしたプロジェクト。自身が担当する理科の授業では季節ごとのミツバチの様子を伝え、講師の笹川浩美さんが担当する3年生の選択授業「ミツバチの世界へ、ようこそ!」では、ミツバチや蜜蝋、蜂蜜に触

れながら、ミツバチとその生活やミツバチと人間の関わりを学ぶ。気がつけば、生徒や職員、教員の皆さんがミツバチやアシナガバチ、スズメバチ、アブの目撃情報を教えてくれるようになった。

ミツバチの視点に立つと、人間たちの自分勝手な活動による環境の変化がクローズアップされていると感じられる。平年値以上の気温上昇とそれに伴う花期の変化、農薬の使用、人間にとっては少しの変化がミツバチのいのちに関わる。ミツバチたちに教わり、担当する選択授業「SDGsのすゝめ」の3年生たちと草木の種を播き、苗を植え、敷地内に蜜源となる花を増やした。秋の落ち葉は用務員さんたちが廃材で作った囲いの中で腐葉土にして草花に。腐葉土



には自然とカブトムシの幼虫が育つ。3年目、初めて分蜂をコントロールして新女王バチへの更新に成功。そして初めて冬を越して、春を迎えることができた。

ミツバチの恩恵は人のつながりも創り出してくれる。課外活動では料理と手芸の会や幼稚園舎の家庭部が蜂蜜を使ってお菓子作りを。選択授業「造形ワークショップ」では铸金用の型作りに蜜蝋を。職員さんも蜂蜜と中等部産の梅の実でジャム作りを。蜂蜜搾りには高等学校の先生方や慶應

義塾ミュージアム・コモンズ (KEMCO) の先生と学生さんたちが来てくださった。瓶詰の蜂蜜は来校者へのお土産としても役立っている。土をつかって花を育て、ミツバチが花粉と蜜を集めてその際に受粉して実がなり、ミツバチの群れが大きくなって蜂蜜が採れ、蜂蜜と実を頂き、また土をつくる。このサイクルを応援してくれる人の輪も広がる。循環・持続可能なものから得られるものは大きい。

もちろん良いことばかりではない。秋にはオスズメバチの襲来やミツバチをターゲットとするダニが発生。毎年それらとの戦いも待っている。しかし、これもまた大切な生きた教材となる。

中等部のミツバチは数万匹が在籍していて、その多くは大変な働き者だけど、おとなしい子もやんちゃな子も正義感が強くて活発な子も怠け者もいる。どこか生徒たちに似たミツバチは毎年違う一面を見せてくれる。4年目の冬も無事に越してくることを願っている。